

院内での普及啓発活動のあり方に関する研究

研究分担者 柴田 尚明 和歌山県立医科大学救急集中治療医学講座 助教

研究要旨：

院内で臓器移植を普及啓発するためには、まずは院内ドナーCoの養成を行うことが大切と考えた。そのために必要な本邦での問題点を抽出し、それらの問題点を解決する院内ドナーCo養成方法の確立が本研究の主目的とである。

A. 研究目的

院内ドナーコーディネーター(院内ドナーCo)の養成方法およびその活動に関する問題点を抽出する。また、院内ドナーCo以外の職員の臓器移植に対する理解度を認知する。そのうえで、院内での普及啓発活動のあり方を確立することを本研究の目的とする。

B. 研究方法

本邦における問題点の把握

本邦と海外における院内ドナーCoの養成方法および活動を比較し、本邦における院内ドナーCoの養成方法および活動の問題点を抽出する。海外については文献などで把握し、本邦については、臓器提供施設へアンケート調査を行う予定である(平成30年度以降)。

院内ドナーCo以外の職員の臓器移植に対する理解度の認知に関しては、まずは当施設の職員へアンケート調査を行う予定である(平成30年度以降)。

普及啓発稼働の確立

抽出した問題点を基に、院内ドナーCo数の多い当施設の院内ドナーCo養成方法および活動と参考にし、本邦における具体的な院内ドナーCo養成方法(院内ドナーCo養成講座など)と院内での普及啓発活動(シミュレーションや定期的な院内研修など)を確立する。

(倫理面への配慮)

アンケートは、職種および所属科・所属病棟/外来のみ記載していただき、匿名化する。

C. 研究結果

海外における院内ドナーCo養成

文献検索の結果、海外でも院内ドナーCoが臓器移植に重要な役割を担っており、院内ドナーCo養成を行うことにより、臓器移植数増加や院内ドナーCoとしての行動に大きく影響していることが示されている。これらの文献に記載されている養成方法としては、「脳死について」「ドナーCoの役割」「ドナー

家族との会話」「ドナー患者への医療」「移植臓器の割り当て」「移植臓器の生着」「臓器移植に関わる経済学」など移植医療にかかわる一連の座学およびケースシナリオを用いたロールプレイやシミュレーションを行っている。そして、この養成コースに参加した方々にアンケートを行い、コースの満足度や理解度などを調査している。

本邦における院内ドナーCo養成

日本の院内ドナーCo養成に関する文献も認められ、それらの文献でも、上記の海外で行われているような臓器移植に関わる座学やグループワークを行っている。そして、これらの養成プログラムを行うことにより、臓器移植増加や院内ドナーCoの知識および技術向上に役立っていると報告されている。

D. 考察

文献的分析の結果、院内ドナーCoを要請するための一連のプログラムを行うことにより、院内ドナーCoの移植に対する知識やドナー患者に接する技術が向上し、結果として臓器提供が円滑に行われていると考える。そして、この院内ドナーCo養成プログラムは、内容に差はあるが、「臓器移植に関する必要な知識の座学」と「グループワークやシミュレーション」から成り立っている。

院内ドナーCoが多い当院でも、計6回の座学を行い、院内ドナーCoを養成している。そして、当院で実際行われた臓器移植症例を基にケースシナリオを作り、院内ドナーCoが主となって院内でシミュレーションを行い、各症例で問題となったポイントを再確認し、次へ繋げるようにしている。

したがって、このような院内ドナーCo養成プログラムを用いることにより、ある一定の成果が得られると考えられる。そのため、本邦における各移植医療機関での院内ドナーCo要請に関するアンケートを行うことにより、問題点を抽出し、本邦での院内ドナーCo養成方法および普及啓発活動を確立しようとする。

また、院内ドナーCo以外の職員に対し、臓器移植のコンセプトを伝えることは、さらなる院内での普及啓発活動になるのではないかと考える。

E. 結論

院内ドナーCoの養成プログラムを確立することは、院内で移植医療を普及啓発することに繋がると考える。

また、院内ドナーCo以外の職員に対しても、臓器移植を理解していただくことが、さらなる院内普及啓発になるのではないかと考える。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

2017年度は移植に関する論文発表を行っていない。

2. 学会発表

2017年度は移植に関する学会発表を行っていない

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

特になし

2. 実用新案登録

特になし

3. その他

特になし